



おおい しゅんいち
大井 俊一 議員



録画映像は
こちらをCHECK

オピニオンリーダーを増やす施策は

答 表彰制度を検討

問 動物愛護・管理について、※オピニオンリーダーを増やす施策を町はどう考えているか。

答 以前の定例会で表彰制度の提案をいただいたが、表彰制度は、犬を飼っていない人や周辺住民の意にも配慮する必要があると考える。犬を飼っている人と飼っていない人、双方の立場がお互い納得できるように表彰制度として実施できるように、検討していきたい。町の対応は。

答 多くの人に「楽しかった」と思ってもらえるよう、今後も心がけていきたい。

問 まな関係者から問題点を指摘されている。改善についての考えは。

答 関係団体向けに毎年実施している。本年度は今後実施を予定。イベント参加者へのアンケートは実施していない。

問 よしおかふるさと祭りについて、閉会後にイベント参加者と出店者にアンケートを実施をしているのか。

答 飼い主への努力義務が規定されたことから、広報9月号に条例改正について掲載し、周知を図っている。

三 解説
※オピニオンリーダー 特定の分野や集団において、周囲の意見や行動に大きな影響を与える人物。

問 令和6年のよしおかふるさと祭りに、さまざまな関係者から問題点を指摘されている。改善についての考えは。

答 多くの人が楽しかったと思えるイベントに



多くの人が楽しかったと思えるイベントに



女性消防団員の増加にも期待したい

問 関係者の昼食は町外業者のお弁当だが、出店飲食店で使用できる食事券に変更してはどうか。

答 提案については、出店飲食店も、関係者にとっても、いわゆるウインウィンなものなのではと考える。検討していくことは多いが、貴重なご意見として受け止め、検討課題とし、今後議論をしていきたい。

問 消防団員の不足の現状と問題点は。

答 定数128人に対して、令和6年4月1日現在で74人の団員数であり、充足率57・8%と危機的状況。近年転入者が多いが、仕事や価値観の多様化などもあり、直接団員数の増加に結びついていないのが現状。

問 機能別団員（広報など補う団員）導入の将来的な展望は。

答 普段の訓練や行事に参加は求めず、火災や災害発生時のみ、現団員をサポートするような活動を想定。今後協議・検討したい。

町の最終処分場の基本方針は



ひろしま たかし
廣嶋 隆 議員



録画映像は
こちらをCHECK

答 明文化したものは無い



令和6年11月に実施した地質調査
(最終処分場建設予定地)

問 洪川広域次期最終処分場建設は、令和6年4月から測量・地質調査が始まり、令和6年度内には基本計画が策定される。完成まで残り5年だが、最終処分場の基本方針について、町の考えは。

答 地域理解の促進および廃棄物などの適正処理

の推進を図り、周辺地域の生活環境の保全および周辺の施設について適正な配慮を図るといった基本方針だが、明文化したものは無い。

問 新しくできる施設・建物についての基本方針

は。

答 最新の技術を導入、地域の安全の確保をしていくものと考えている。

問 町はどのような最終処分場にしたいのか。

答 周辺地域の人々の生活環境や自然環境の保全を最優先。ハード面・ソフト面ともに安全・安心な施設とし、ごみの減量化・リサイクルの促進による環境負荷の軽減などの啓発、環境教育ができる施設にもしていきたい。

問 私は具体的な答えを求めている。例えば、大人になってからごみを減らしましょうと言っても、効果は上がらない。小学生の見学の場として、ごみ減量

化に対する学習をする施設とする考えについて、教育長の見解は。

小学4年生の社会科では、「住みよいくらしをつくる」という単元の学習がある。廃棄物がどのように処理されて、私たちの生活が衛生的に営んでいけるかという学習をしている。提案のような最終処分場になれば、こんなに身近にごみの処理が分かり、最終的にごみがこのようになると分かる学習の場として良いものになると思う。

答 最終処分場の施設については、循環型社会形成推進交付金事業で行うが、進入路に関しては、交付金は対象外である。そこで、進入路である町道を改良・拡幅して整備する場合には、道路管理者である町

進入路の道路整備は

洪川広域組合が実施

問 最終処分場の施設については、循環型社会形成推進交付金事業で行うが、進入路に関しては、交付金は対象外である。そこで、進入路である町道を改良・拡幅して整備する場合には、道路管理者である町

が主体となって道路整備を行うのか。

最終処分場建設に伴う進入路の整備に関して、洪川広域組合が事業主体となり、道路整備を実施する。

答 町の費用負担金はゼロなのか。

問 町は費用負担金はゼロなのか。

答 負担金として町も納付する。

問 負担比率については。

答 従来の負担割合を適用し、搬入量割・均等割が使われ、概算で町の負担は20%ほどになると考える。



進入路は洪川広域組合が整備を実施する
(町道 1149 号線)



はるやま かずひさ
春山 和久 議員



録画映像は
こちらをCHECK

天神東公園 どう進めるか

答 立地条件を生かし、魅力を高める

問 天神東公園は基本計画を策定することになり、道の駅と一体となった整備に期待。町としてはどのような形で整備を進めるのか。

答 道の駅よしおか温泉と隣接している立地条件を生かし、道の駅と一体的な公園として位置付け、魅力を高め、集客と売り上げ増に貢献するよう検討中。

問 リバートピア吉岡は、町民以外の利用が多いと耳にする。その場合、温泉に多額の経費を投じる必要があるのか町民から疑問



真に町民の憩いの場になるよう期待
(天神東公園)

が出て当然。利用者の分析はしているのか。

答 令和6年9月の料金改定の際、回数券では町民かつ65歳以上の人を対象に、安価な料金設定を行った。回数券の9月の売り上げ状況は、30%が町民、70%が町民以外。現在、町民・町民以外を把握するすべはない。リバートピア吉岡は、住民の福祉向上や健康増進の側面、また収益の確保、これには観光施設として外貨の獲得も考えられ、双方のバランスを図り投資は必要。

産業団地事業の今後は

答 2月頃関係者説明会を予定

問 産業団地事業の今後のスケジュール

答 令和7年2月頃に第3回関係者説明会で道路・公園・調整池の位置などの基本計画を示したい。試掘調査は同意が得られた土地から調査をしていく。

問 令和6年7月に行われたアンケート結果から事業区域(案)に変更はあったか。

答 関係者人数は変わらず、面積約20ヘクタールを予定。

問 都市計画道路宮田大藪線の未着手部分の今後は。



とみおか えいいち
富岡 栄一 議員



録画映像は
こちらをCHECK



毎週水曜日に収集を行えるよう調整中

問 大藪交差点東の未着手部分の危険地点は路面表示を検討。

答 老人福祉センターで、高齢者と子どもとの触れ合いの場所としての子育て支援はできないか。

問 指定管理者と相談の上、事業の可能性を考えたい。

答 プラスチック類のごみ回収回数は増やせないか。

問 令和7年4月より毎週水曜日にプラスチック類のごみ収集を行えるよう調整中。

駒寄川河川改修の内容と工期は



いづか けんじ
飯塚 憲治 議員



録画映像は
こちらをCHECK

答 護岸工事を令和8年度に着手予定



護岸工事が計画された駒寄川の現況

問 駒寄川下流域の河川改修の内容と工期は。

答 未整備部分にブロック積み護岸を設置。令和6年12月から測量調査、7

年度に設計、8年度に工事着手予定。

問 上野原と漆原両地区の出水対策の完了時期は。

答 上野原地区は令和6年中に完了。漆原地区の

2カ所は令和7年度内に完了の予定。

問 溝祭地区から駒寄地区域排水計画の進捗状況は。

答 当該地域の排水対策は、広範囲であること

から、多額の費用が見込まれる。本年度は、側溝・集水升の改修を行い、排水が集中するエリアを分散する

工事を2カ所実施する予定。なお、全体的な地域排水計画は予定していない。それ

に伴い、雨水排水調査も見直して、2カ所施工後の状況把握をしていくこととした。

吉岡バイパス延伸の計画は

次期県土整備プランに位置付けられた

問 県道前橋伊香保線吉岡バイパスの宮東交差点

から先の延伸計画はどのようなものか。

答 宮東交差点から北方向に1・3キロメートル



宮東交差点から北へ1.3キロメートルが着手する事業に位置付けられた

の範囲。この部分が次期の県土整備プランにおいて、着手する事業として位置付けられた。

問 川久保踏切付近から上野田交差点までの建設

は、その効果が大きく問われるが。

答 今後の1・3キロメートル延伸事業の進捗状況を見ながら、引き続き建設要望を行う。

業務執行スピードの向上策は

事務の専門性に対応した人材が必要

問 人口の減少は税収の減少に連動。本町の人口

減少は10年ほど先に迫っている。将来のための諸施策実行のタイムリミットが近づいている。業務執行スピードの向上が必要では。

答 行政の執行スピード向上に必要なのは、意思決定の迅速化と考える。それには事務の専門性に対応した人材の確保が必要。実現に向けて議論を進める。

問 過去5年間、業務の進捗が遅いのはなぜか。

それは人的パワーの不足ではないのか。本町は将来のために、準備を加速しなければならぬ重要な時期。インフラ整備・将来への諸計画策定業務などの担当部署を見直し強化する考えは。

答 現組織体制でも、各課連携を取りつつ柔軟な

対応をしている。課・局などの枠組みにとらわれず、十分対応可能と考える。今後は限られた人材と財源の中でインフラ整備を進めていく。



さかた かずひろ
坂田 一広 議員



録画映像は
こちらをCHECK

町の高齢者福祉の課題は

答 積極的・自発的な施策の実現

問 令和6年度から、高齢者保健福祉計画および第9期介護保険事業計画が新たに始まった。高齢者福祉の現状と課題についてどのように考えるか。

答 高齢化率の低さは県内トップクラス。今後の課題として、地域で支え合い、住民が相互に助け合う地域共生社会のまちづくりをどのように進めていくかは、比較的若い世代の高齢者が多い町の強みをどこまで生かせるかにあると感じる。高齢者自らが支える側となれるような、積極的・自発的な施策が実現できるかが今後の課題。

問 高齢者虐待防止法が施行されて18年経過。全国的には相談・通報件数、虐待判断数ともに高止まりの状況が続いているが。

答 町内では、令和5年度は通報1件、虐待判断が1件。本年度は今のところ通報はない。

問 高齢者虐待の早期発見・早期対応の観点から、関係団体や民間団体との協力体制が求められるが。

答 なるべく早い段階で高齢者への適切な支援に結びつけられるようなネットワークづくりを構築したい。

問 認知症高齢者は、令和7年には65歳以上の5人に1人が達するとされている。*チームオレンジの取り組みは欠かせないと考えるが。

答 現在は、「元気になるカフェ」といった移動カフェなどで活動。

問 老人クラブは、高齢者福祉や地域コミュニケーション



移動カフェ「TEKU TEKU」

イの活性化など大きな役割が期待されるが、このところ、衰退傾向にある。補助金を増やせないか。

答 地域貢献やレクリエーション活動で介護予防・健康づくりのための活動が行われるような実態・実績が報告されるようになれば、そういったものに対する補助金について、今後、検討したい。

公共施設のバリアフリー化は段階的に進めたい

問 公共施設のバリアフリー化が進んでいないが。

答 多額の経費が必要になるので、段階的に整備を進めていきたい。

問 高齢者などの安価な移動手段として、デマンドバスの検討は。

答 都市計画マスタープランの改定に併せ、公共交通マスタープランを改定。まちづくりと移動手段が一体となった都市計画マスタープランを策定予定。町にとって最適な移動手段の確保について検討予定。



デマンドバス運用の検討を

ミニ解説

*チームオレンジ
ステップアップ研修を受けた近隣の認知症サポーターがチームを組み、認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援などを行う取り組み。

学校給食で地産地消を



こいけ はるお
小池 春雄 議員



録画映像は
こちらをCHECK

答 非常に重要な課題と考えている



食べていける農業の確立を

問 学校給食の地産地消に
ついて、日本の食料自
給率は38%の現在、基礎自
治体としての取り組むべき
施策は安心安全の食料生産
と消費である。全国では、
学校給食の地産地消が進ん
でいる。農家・農協・吉岡
町振興公社などを含め、吉
岡町で食べていける農業の

確立と、安心安全な学校給
食の食材提供を、大幅に取
り入れていくための手だて
を講じていくべきと思うが。
答 安心安全の食料生産と
消費、学校給食での地
産地消、食べていける農業
の確立、これは自治体とし
ての非常に重要な課題と考
えている。特に、食べてい
ける農業の確立は、吉岡町
の差し迫った課題と考えて
いる。

食べていける農業の確立
には、政策の不足などがあ
り、これらが農業を続ける、
また参入する上での課題と
考えている。食べていける
農業を目指した政策に取り
組んでいきたいと考える。

町内で生産された安全な
米や野菜を給食で利用する
地産地消のシステムを学校
給食に取り入れることには
多くのメリットがあると考
えている。町の豊かな自然
や文化、産業への視野を広
げることができ、生産者へ

の感謝の気持ちや持続可能
な社会の実現という視点も
育てられ、食材の輸送距離
が短くなり、CO₂を削減
し、環境への負荷を軽減す
る利点を子どもたちが実感
できると考えている。

問 学校給食は学校給食法
で定められていて、教
育活動の一環であると基本
理念を明らかにしている。
国および地方公共団体は給
食の普及と健全な発展を図
るよう努めなければならない
とあり、また、学校給
食は地産地消、農産物を活
用されるよう定められてい
る。これらを実現するため、
教育委員会として町に言っ
ていくべきだと思うが。

行政への働きかけはこ
れまで弱かったと認識
している。新たな給食セン
ターの建設に向け、地産地
消の推進を積極的に働きか
けたい。

若い世代の農業支援・
食の安全などに期待感
を持って臨んでいきたいと
考える。



学校給食で吉岡町産の米の使用を
(令和6年度吉岡町産コシヒカリ)

**食の安全と農業者育
成を**
期待感をもって臨み
たい

問 千葉県いすみ市では学
校給食に使う米を1俵
2万3千円、京都府亀岡市
では1俵3万6千円で生産
者と契約し、「農業者保護
は消費者保護」の考えでオ
ーガニック栽培を支援して
いる。吉岡町でも食の安全
と農業者育成のために補助
金などを活用し、進めてい
くべきだが。

若い世代の農業支援・
食の安全などに期待感
を持って臨んでいきたいと
考える。

若い世代の農業支援・
食の安全などに期待感
を持って臨んでいきたいと
考える。